●質的研究（現象学）のクリティーク・チェックシート（作成：2020.6.1）

抄読する論文の掲載誌名： （IF:　　　　／雑誌のランキング　　　　　）

抄読する論文の被引用回数：

発表者氏名：

発表日：

抄読する理由：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　　 | チェック項目 | チェック（○△×） | チェックの理由（記載箇所を示すだけではNG） |
| タイトル | タイトルは研究のカギとなる研究テーマや研究方法論／研究デザイン（現象学的研究）を示しているか | 　 | 　 |
| 抄録 | 雑誌の投稿規定に沿って、研究の要約が簡潔に記載されているか。 | 　 | 　 |
| 序論 | 文献レビューは十分に行われているか。このトピックについて、既に知られていることは何か(先行研究で分かっていること、まだわかっていないこと)について記載されているか | 　 | 　 |
| リサーチクエスチョンは先行研究を発展させた内容であるか研究の必要性が明確に記述されているか | 　 | 　 |
| 生きられた経験を明らかにするという現象学の基本に沿ったリサーチクエスチョンが明確に述べられているか | 　 | 　 |
| 目的 | 対象がその現象をどのように経験し意味づけしているのか深い理解を目的としているかについて記載されているか　 | 　 |  |
| 方法 | 研究デザイン | 現象学は研究目的にふさわしいものか | 　 | 　 |
| どの哲学者による現象学の考えを選択したか適切な説明がある（フッサール、ハイデッガー、メルロ・ポンティなど） | 　 |  |
| どの研究者による現象学的研究アプローチを選択したのか、どのような根拠で選択したのか記述されているか（van Manen, Giorgi, Colazziなど） | 　 |  |
| 本研究で使用した現象学、及び現象学的研究アプローチの適切な引用文献が記述されているか | 　 | 　 |
| サンプリング | 目的に沿った適切な対象者を選択しているか | 　 |  |
| データ収集方法 | 主要データはグループインタビューや観察ではなく、個別インタビューにより収集されたか | 　 | 　 |
| 体験についての語りを促進するため、オープンエンドクエスチョンや自由会話、In-depthインタビュー方法などが用いられたか | 　 | 　 |
| データ（分析も含む）の信用可能性（credibility）の検証方法を記述しているか（例：トライアンギュレーションやメンバー・チェック、ピア・デブリーフィングなど） | 　 |  |
| データ収集の手順は明確に記述されているか（例　逐語録を作成し） | 　 | 　 |
| 研究目的に合った十分な量のデータが収集されたと判断できる記述があるか（例：対象者数、インタビューの時間・回数など） | 　 | 　 |
| データ分析 | 選択した現象学的研究アプローチに基づく分析方法が説明されているか | 　 | 　 |
| フッサールを選択した場合は現象学的還元を考慮したか、ハイデッガーやメルロ・ポンティなどフッサール以外の現象学を選択した場合は、研究者の存在が研究に及ぼす影響を理解し分析したかについて記載されているか | 　 | 　 |
| データ分析は選択した現象学的研究アプローチに沿って適切に行われたと判断できる記述があるか | 　 | 　 |
| 倫理的配慮 | 対象者に対する研究の説明は適切に行われたか | 　 | 　 |
| 対象者の同意を得ているか | 　 | 　 |
| 倫理委員会の承認を受けているか | 　 | 　 |
| 結果 | 結果の解釈に必要な対象者の特性が記述されているか | 　 | 　 |
| データ収集に関する結果が記述されているか（例：インタビュー時間や回数、人数など） | 　 | 　 |
| 分析結果は抽出したサブテーマ、テーマを軸に詳細で明確に記述されているか | 　 | 　 |
| テーマは表面的な記述の集合体ではなく、十分な解釈がなされたか（フッサールではエッセンス） | 　 | 　 |
| 研究結果は研究目的と合致しているか | 　 | 　 |
| オリジナルデータからの引用は適切で十分な量が含まれているか | 　 | 　 |
| 引用したオリジナルデータは関連するサブテーマやテーマを支えていると判断できるか | 　 | 　 |
| 予想に反した／矛盾したデータも考慮したテーマが導き出されたか | 　 | 　 |
| 考察 | データ、分析、結論のつながりは明確であるか | 　 | 　 |
| 主な研究結果は先行研究を背景に説明され考察されているか | 　 | 　 |
| 研究結果の転用可能性について記述されているか | 　 | 　 |
| 研究の限界やさらなる研究の必要性について記述されているか | 　 | 　 |
| 引用文献 | その研究分野における重要で専門的な情報が網羅されているか | 　 | 　 |
| 先行文献は適切に文中に提示または引用されているか | 　 | 　 |
| 資金提供者 | 研究助成などの資金源を記述しており、利益相反の恐れはないか（研究内容に照らし合わせて、研究資金の有無の妥当性も確認する） | 　 | 　 |
| **参考文献**　1. Cypress BS. Rigor or Reliability and Validity in Qualitative Research: Perspectives, Strategies, Reconceptualization, and Recommendations. Dimensions of Critical Care Nursing. 2017;36(4):253-63.2. Errasti-Ibarrondo B, Jordan JA, Diez-Del-Corral MP, Arantzamendi M. Conducting phenomenological research: Rationalizing the methods and rigour of the phenomenology of practice. J Adv Nurs. 2018 Jul;74(7):1723-34.3. McConnell-Henry T, Chapman Y, Francis K. Member checking and Heideggerian phenomenology: a redundant component. Nurse researcher. 2011;18(2):28-37.4. Pringle J, Drummond J, McLafferty E, Hendry C. Interpretative phenomenological analysis: a discussion and critique. Nurse researcher. 2011;18(3):20-4.5. Pereira HR. Rigour in phenomenological research: reflections of a novice nurse researcher. Nurse researcher. 2012;19(3):16-9.★チェックシートについてわかりにくいところがある場合は、本書に例を挙げて詳しく説明していますのでぜひ参考にして下さい。『研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版』（<http://jnapcdc.com/cq>） |